

## 平成28(2016)年「正覚寺報」10月号

## ご案内

## お聴聞と人生を語る会10月2日(日)20時～

本会では、阿弥陀如来はどのようにして衆生の上にお姿を現わされるかをお訊ねしております。

## 仏教婦人会例会 10月16日(日)19時半～

如来様のお慈悲をじっくりとお聞かせ戴きます。初めてのお方もお参りになって下さいませ。

## 報恩講 10月29日(土)大遠夜 14時、初夜19時半～、10月30日(日)満日中10時～

東西本願寺では歴史的に“信心一つでお救いに与る”として、却って隘路に陥ってきた懸念があります。お客僧の“瓜生宗師”には、これを打開して余りある御法話をお聞かせ下さることでしょう。

## ご法座の趣旨とコンテンツのアウトライン

十月は、報恩講という浄土真宗にとって最も大切なご法座を営みます。

如来様のお慈悲に遇わせて戴くには常のお聴聞が欠かせません。そのための手掛かりとして“りびんぐらいぶず”を最低三件営んでおります。

・りびんぐらいぶず10月第1号「ひさしくしずめるわれら(龍樹讃第7番)」は、去る8月30日の教区青年布教使実習の成果を解析し独自の構成で掘り進めたものです。

浄土真宗では“如来様のお救いに与り”ます。

・何をお救い下さるのか。 苦悩の人生からお救い下さる。 どのようにしてお救い下さるのか。

苦悩のまま、触れたご縁を生かし命を輝かして生きる生き方に目ざめさせて戴きます。

・このご案内の特徴は、“お救いに与った状態”というアウトプットを元にご案内したものです。

・なぜ“ひさしくしずめるわれら”というのか、四苦八苦の御文をお訊ねすることになります。

・最後に、そのような衆生である私が、阿弥陀如来のお救いに与る“仕組み”をご案内し、賜った“行い”を通して如来様のお姿にお会いし、最後に、“これが浄土真宗の信心でしたか”とご納得戴く仕方で仕上っております。

・りびんぐらいぶず10月第2号「如来の作願をたづぬれば(正像末和讃第38番)」は、浄土真宗の救いの構造に迫り、如来回向の大成を契機に“聞名”に恵まれる道行きをお訊ねしています。

煩悩具足の凡夫がどのようにしてお救いに与るのか、親鸞聖人は決して抽象的に“信心一つ”をお勧めになっているわけではありません。御消息をひもときますと寧ろ、実体験である“撰取不捨のご利益”を手掛かりにしていっしょにいます。

煩悩具足の凡夫がどのようにして今生のお救いに与り、浄土往生のご利益に与るのか。

その構造を如来様より賜ったお念仏の行業の中にお訊ねし、直ちに働いて下さる法の働きの中で如来直々のお喚び声に遇わせて戴く。その道行きに“左様”かと頭が垂れるときが信心獲得のそのときだったと窺わせて戴いております。

・りびんぐらいぶず10月第3号「葬儀や法事は何のためにするのですか」は、去る9月24日の総代会第一回研修会の内容であります。但し、新たな発見として、“お正信偈を上げることは、まず帰敬偈でお念仏を二回称えていることになる”は、信心獲得前のお念仏の勧めの存在を窺わせます。お正信偈は未信の行者をも対象とするからです。

・りびんぐらいぶず10月第4号「世の中安穩なれ、仏法広まれ…伝道教学構築の可能性…」では、ご消息第二十五通に着目しております。

そこでは、お念仏自体を、社会性、信心獲得前の行業とする押さえがあり、世の中安穩は、伝道との二人三脚であるべき旨が謳われております。則ち、1.国家・国民のために念仏申しあわせ給ひ候はば、めでたう候ふべしと「社会性」が謳われ、2.往生を不定におぼしめさんひとは、まづわが身の往生をおぼしめして、御念仏候ふべし、と未だ信心を頂戴していない者への「行業」が示され、3.わが身の往生一定とおぼしめさんひとは、…世のなか安穩なれ、仏法ひろまれとおぼしめすべしとぞ、と「伝道」と一本化した「社会性」が示されてあるからです。合掌。